

# ノートルダム清心女子大学研究データポリシー

2024年3月28日

学 長 制 定

## 1. 目的

ノートルダム清心女子大学（以下「本学」という。）は、その教育理念において、「キリスト教精神にもとづいて、真なるもの・善なるもの・美なるものの追求におく」としている。また、本学は「リベラル・アーツ・カレッジとしての性格をもち、教育・研究を通して真の自由人の育成を志し、社会生活を遂行する手段を供するとともに、むしろそれ以上に生きることの意義を共に追求することをもって本学の使命とする」とある。

そこで、本学の教育の根幹である研究活動について、多様な研究成果を適切に管理、保存、公開し、可能な限り利活用を図り、社会と共有することで、本学の発展はもとより、学問の発展や健全な未来社会の実現に貢献することを目的とし、本学の研究データの管理、公開およびそれらの利活用に関するポリシーを以下に定める。

## 2. 研究データの定義

本ポリシーにおける「研究データ」とは、本学における研究活動の過程で研究者によって収集または生成された情報を指し、デジタル・非デジタルを問わない。

## 3. 研究データの管理など

本学において、研究者は研究データを適切に管理・保存しなければならない。

## 4. 研究者の責務

本学は、原則として、研究データを収集または生成した研究者が、研究データの管理を行う権利と責務を有していることを認め、研究者は、研究データの価値を守るため、それぞれの研究分野に関する法的および倫理的要件に従って研究データ管理を実施する。

本学は、研究データが、論文などと同様に、学問の発展や健全な未来社会の実現に貢献するための基盤となることを認識し、特段の場合を除き、可能な限り社会に公開し、その利活用を促進する。

## 5. 本学の責務

本学は、研究データの管理および公開、そして利活用を支援する環境の整備を推進する。

## 6. その他

社会や学術状況の変化は著しいことに鑑み、本ポリシーを、適宜見直しを行うものとする。